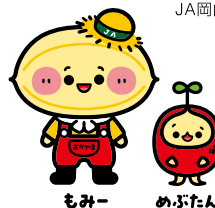


ぱれっと

Palette



もみー

めぶたん

10

2025 October

vol.302

『地域農業の活性化』取組宣言 3カ年の営農振興計画を策定

10月16日は
国消国産の日



©みんなのよい食プロジェクト

農を担う
ナス農家 大井 健司 さん
備南地区……10ページ

今月の折り込み

令和8年産作付用水稲種子注文申込書
2025年10月号カタログショッピングチラシ ほか

営農振興計画の基本方針と行動計画

自己改革の取り組みを通じて
「つなぐ」「つくる」「つたえる」を意識して

『組合員・地域とともに歩む!～協同活動と総合事業の好循環～』をテーマに「持続可能で強く元気な岡山県農業の実現」「豊かで、元気な地域社会の実現」「『食』と『農』を基軸とした地域に根差した『協同組合』の役割発揮」をJA岡山営農振興計画の基本方針の3本柱として位置づけました。

基本方針1

農畜産物の生産振興

重点実施事項

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

【指導課】

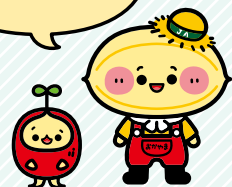
数値目標等(3カ年)

【ザルビオ導入面積】
496ha⇒750ha(254ha増)
【特色のあるJA岡山米作付面積】
「きぬむすめ」120ha⇒140ha(20ha増)
「にこまる」400ha⇒590ha(190ha増)
「つやきらり」450ha(新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・水稻の高温対策によりJA岡山米の高品質生産に取り組みます。
- ・食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」ならびに高温耐性を備えた「にこまる」の推進エリア設定による生産拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。

ザルビオの
研修中だよ!



【米穀課】

数値目標等(3カ年)

【里海米作付面積】
190ha⇒240ha(50ha増)
【酒造好適米出荷枠】
24,000俵(年間)
【品種別施設受入重量(3年後)】
「きぬむすめ」400t
「にこまる」1,650t
「つやきらり」740t

具体的方策

- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米推奨品種の普及拡大に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。
- ・需要に応じた酒造好適米ならびに水田活用米穀の普及推進に取り組みます。
- ・JA岡山米「きぬむすめ」「にこまる」「つやきらり」への品種転換に伴う、ライスセンター、カントリーエレベーター施設等の受入体制整備に取り組みます。



『地域農業の活性化』取組宣言

3カ年の 営農振興計画を策定



JA岡山では管内農業の現状と課題を把握し、10年後のあるべき姿を見据えて、地域農業の活性化に向けた向こう3カ年の営農振興計画を策定しました。

また、JA岡山では『地域によろこびの種をまく』を経営理念に、人と人を繋げて農業と生活を守る組合員の願いを実現することを使命とし、組合員・地域とともに歩み続ける組織として活動してまいります。

営農振興計画は、令和7年度から令和9年度にかけて、当組合が組合員の皆さまとともに取り組むべき営農振興の基本方針と行動計画、営農センター別の重点実施事項と行動計画を示したもので、計画達成に向けた「重点実施事項」と「具体的方策」をご紹介します。

活動テーマ

『よりよい営農活動』に向けた 『提案型営農指導』による『農家所得の向上』

「よりよい営農活動」に向けて

よりよい営農活動とは「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」の5分野の農業生産工程について、リスク評価とそれに基づく改善を実施し、様々なリスクから農業者・農産物を守り農業経営の改善と効率化に繋げる取り組みです。

具体的な取組

【営農リスク低減】

○営農リスクの低減に向けて、「食品安全」「環境保全」「労働安全」等の観点から営農指導の改善と強化を図る。

【事業の好循環】

○総合事業力(購買・販売・信用・共済との連携)の強化と実践により、農業者とJA間の事業の好循環に繋げる。

【提案型営農活動】

○農業経営の改善や効率化に向けて、対話による生産現場の課題とニーズ把握に基づく提案型営農活動を実践し、農業者所得の向上に繋げる。

【環境に配慮した営農活動】

○環境調和型農業・SDGsの取組を強化し、「地球にやさしい・環境に配慮した」営農活動に取り組む。

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

【指導課】

数値目標等 (3カ年)	【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
	【TACリーダー会議】	12回/年
	【GH農場評価員認定取得】	15名(3カ年)
	【営農指導基礎研修会】	各営農センター1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制強化に取り組みます。
- ・担い手経営体の経営基盤強化に向けた法人化支援に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。
- ・外部研修制度を活用し、営農アドバイザーとして、専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。
- ・新任TAC指導員の確保、育成を図ります。



重点実施事項 ②

営農振興計画実践状況の見える化

【指導課・米穀課・園芸課】

数値目標等 (3カ年)	【TAC指導員課題実践】	1課題/年
	【営農振興計画実践報告会】	4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・営農振興計画に基づき、地域農業の現状把握と課題解決に向けたTAC指導員課題実践活動目標の設定を行います。
- ・営農振興計画に基づくTAC指導員課題実践の取組状況について、組合員への周知を図ります。



※営農部各課の行動計画および各営農センターの取組みについてはQRコードよりご確認ください。



重点実施事項

農産物直売所の販売機能の強化と店舗を基軸とした「地域農業の活性化」と「にぎわいの創出」

【園芸課(直売担当)】

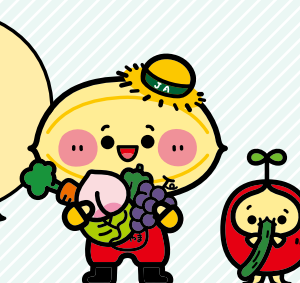
数値目標等 (3カ年)	【直売所年間取扱高(全店舗)】	22億円/年
	【内訳】委託販売品	10.2億円/年
	買取販売品	5.0億円/年
	その他(精肉・鮮魚他)	6.8億円/年
	【新規出荷会員の確保】	50名/年
	【直売所イベントの開催】	8回/年
	【利用者アンケートの実施】	2回/年

具体的方策

- ・生産者の顔が見える安全・安心な農産物販売と地産地消を通じた「消費者」との結び付きの強化により地域農業の活性化に繋がります。
- ・消費者ニーズに基づく「委託品」と「仕入品(買取販売)」のバランスの取れた品揃えの充実と販売力強化による集客力向上を図ります。
- ・消費者ニーズに基づくインターネット販売「花野果オンライン」の品揃えの充実と販売強化に取り組みます。
- ・新規出荷会員の確保と委託輸送の拡充による直売所店舗の機能強化を図ります。
- ・地域住民との交流の場として、JA岡山女性部との連携による「はなやか産直まつり」等の各種イベント開催とSNSを活用した情報発信により、集客力の向上を図ります。
- ・直売所利用者ならびに出荷会員ニーズの把握とフィードバックにより、直売所店舗の利便性向上を図ります。



直売所は
いつも
にぎわって
いるね♪





農業について語る大井さん

8月18日、備南地区の大井健司さんにお話を伺いました。

―就農したきっかけは

祖父の代から施設ナスを栽培しており、私が3代目になります。20歳の頃に祖父からナスの栽培について教わり、3年間学んだ後、結婚を機に本格的に就農しました。現在は、自分流の作り方を模索しながら、夏秋なすを25[㍓]、施設ナスを16[㍓]栽培しています。

経営移譲をきっかけに収支を考える

―就農してからは

3年前に、父から経営を譲り受けたことをきっかけに、収支の見直しと農閑期（7月～9月）の活用を考えていました。

そんなとき、同じ部会の伊原佳宏さんから夏秋なすの共同栽培の提案があり、私も賛同し着手しました。

夏秋なすは露地と施設で条件が大きく異なり、水・肥料・害虫対策も全く違います。体感としては、別の作物を育てるような感覚です。例えば、肥料の施用量も露地の方が多いことを実感しました。

今年是要領を掴み、資材の見直しを進め、昨年を上回る収量が見込めるようになりました。暑さが続く日も、市場開場日に合わせて毎日出荷しています。

―楽しいこと、苦労すること

楽しいことは、芽かきなどのほ

夏秋なすの栽培面積と人員を増やし、JAと相談しながら収量をさらに増やしていきたいです。

夏秋なすの栽培はまだ2年目。地域とのつながりを大切にしつつ、より良い栽培方法を探求し、安定出荷を目指します。

―今後の抱負は

夏秋なすの栽培はまだまだ2年目へ

2年目から3年目へ

聞き手…JA岡山広報担当

伊原さん（左）と協力し選果作業をします
JA職員（右）にも様々な面でお世話になっています

こまめに手入れし、生育具合をコントロールします

経営継承を機に始めた夏秋なす栽培の挑戦と展望



農
を担う
vol.302

大井 健司さん（右）

備南地区：ナス農家

「おおい けんじ」昭和56年生まれ。両親、妻と子ども2人の6人家族。
◎備南施設茄子部会に所属。趣味は海釣り。座右の銘は「実践あるのみ、結果が全て」。



夏秋なすの時期に協力しながら農作業をします！ 伊原佳宏さん（左）、大井健司さん（右）

野菜（ナバナ）

食用ナバナは
栄養価の高い
野菜です



営農部指導課
岸野 真美

10月になり田んぼの稲が実り、黄金色の穂が垂れると収穫の秋を迎えます。秋は、夏から冬への移り変わりの季節なので、畑では「夏野菜の片付け」と「秋冬野菜の管理と準備」の両方が重なる重要な時期です。ナスやピーマンなど、株が弱ってきたら抜き取り片付けます。残さを放置すると虫や病気が畑に残り、次作の発生源になるので畑の外に持ち出しましょう。

●ナバナ（菜花）について

「ナバナ（菜花）」とは、アブラナ科アブラナ属の植物の若い花茎やつぼみを食用とする春野菜のことです。栽培されている「ナバナ」は花茎が柔らかく食味が良い品種改良された菜の花で、関東地方の従来品種として残っている「のらぼう菜」などもあります。

また、コマツナやチンゲン菜などのアブラナ科野菜が春にとっ立ちした

花茎を、柔らかいうちに摘み取って、ナバナとして食べることもできます。

●ナバナ（菜花）栽培について

冬から早春にかけてとっ立ちした花蕾を次々と収穫していきます（資料1）。収穫期間が長期になるので、根がしっかりと伸びるように元肥に良質の堆肥をいれて土作りをします。植え付けの2週間前までに、10平方メートルあたり堆肥を約20kg、苦土セルカ2号を1kg施用して、良く耕します。

また、アブラナ科野菜はホウ素欠乏に弱いので、ホウ素を含んだ「野菜美人牛窓プラス」肥料を1週間前に10平方メートルあたり1kg施用します。

1条植えの場合の畝幅は60cm、2条植えの場合は140cmで条間60cmとして、水はけの良い高い畝を作ります（資料2）。

○苗づくり

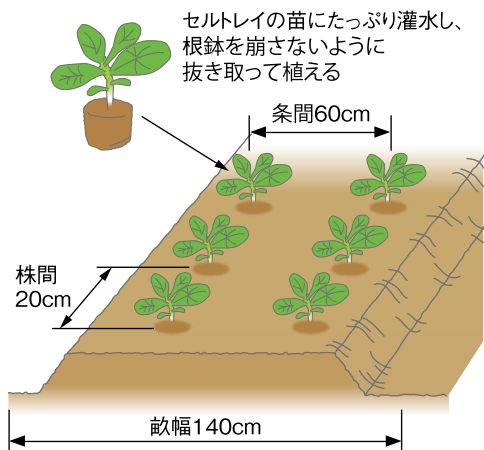
セルトレイによる移植栽培

128穴のセルトレイに1穴2〜3粒種を播きます。本葉1〜2枚の

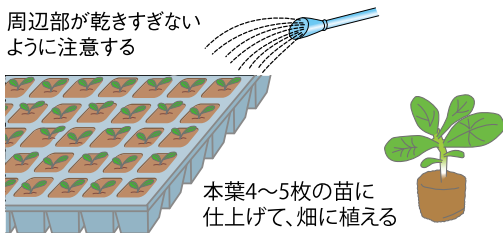
資料1 食用ナバナの作型

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4
暖地									

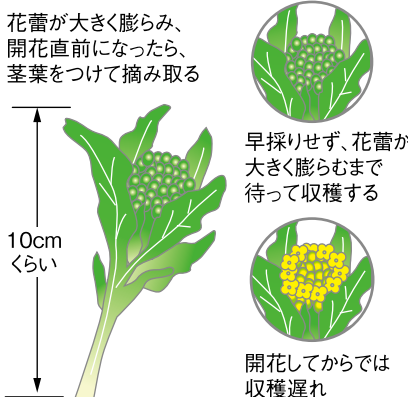
資料2 畑の準備



資料3 セルトレイによる苗づくり



資料4 側枝の収穫



頃に1本仕立てにして、本葉4〜5枚になった苗を移植します（資料3）。移植前にセルトレイの苗にたっぷりと灌水し、根鉢を崩さないように抜き取って、株間20cm程度に植え付けます。定植した後はしっかりと水やりをしましょう。

○畑に種播きする場合

畝の上に鍬幅くらいに播き溝を作り、種子をすじ播きし1cm程度に覆土します。

・間引きと追肥

第1回目の間引きは、本葉2枚の頃、7〜8cm間隔にします。第2回目の間引きは、本葉5〜6枚目の頃、株間20cm間隔にします。第1回目と第2回目の間引きの時に化成肥料50g程度ずつ施用し、軽く土の表面を耕します。

○追肥と管理

植物にとって栄養分が集まる花蕾を摘み取るので、草勢が落ちないように、

花き（ラークスパー）

えっ！
ヒバリの蹴爪？



営農部指導課
中川 雄一

●ラークスパー（千鳥草 飛燕草）

今回は初夏の風を感じられるさわやかな花「ラークスパー」、ヒバリの蹴爪の意になります。ヒバリに蹴爪はありません。それでも、その後ろに伸びる足指、後趾には長い爪があります（資料5）。

花の後ろの長い「距」と、初夏を象徴するヒバリのこの足爪の形から付いた名です。日本名の方がきれいなイメージですね。

花言葉も「陽気」「快活」「自由気ままな暮らし」など好印象で、日向の庭に咲いた姿は華やか、花店でも目を引く切り花です。ただし、庭の花を切つて生けたら案外鑑賞期間が短くなります。それは、早く咲いた下の花から次々

資料5 ヒバリの後趾は爪が長い（蹴爪ではありませんが）



ヒバリ（ラーク）の名は、この花の後ろに長く伸びる「距」から

資料6 満開のラークスパーと作型図



作型	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
露路栽培										
無加温ハウス栽培(参考)										

■ 播種期 ■ 植え付け ▼ 摘芯 ■ 開花

資料7 施肥例と主な防除薬剤

資材名	基肥	追肥
堆肥	20	
苦土セルカ	1〜1.5	
JA岡山専用有機	0.7	0.2

JA岡山専用有機はチッ素10%
JA有機の施用量は地力を考慮して控えます

花き類登録のある薬剤の例

区分	薬剤名	適用(対象病害虫)
殺虫剤	カルホス微粒剤F	カブラヤガ(ネキリです)
	スタークル顆粒水溶剤	アブラムシ類、コナジラミ類
	アフーム乳剤	アザミウマ類、オオタバコガ、ヨトウムシ類
	アディオン乳剤	アブラムシ類、ヨトウムシ類
殺菌剤	リブレックス水和剤	立枯病
	ユニフォーム粒剤	立枯病
	モンカットフロアブル40	白絹病

資料8 摘芯



摘芯した株

●栽培管理（資料6）

○種播き

発芽適温は15〜20℃、25℃以上では発芽しません。そのため早播きは難しく、地域や年によって涼しくなった時期を見極めて行いましょう。立ち枯れ対策として、清潔な市販の播種用培土などを使い、育苗箱に散播するか、288穴程度のセルトレイに播きます（セルでは1〜2粒）。播種前に培土にしっかりと灌水し、覆土後の灌水はしないやり方が発芽良好です。

ラークスパーは嫌光性種子ですから、5cm程度は覆土しましょう。覆土後、乾燥防止に新聞紙をかけておき、発芽まで乾いてしまわないように時々確認しましょう。

発芽まで10日前後（吸水状態などによってばらつきます）かかります。ある程度発芽を確認できたなら、新聞を取り除きます。遅れて軟弱苗にならないよう気を付けます。生えそろったら混み合う部分を間引いたり、セルトレイは2本生えた部分を1本にしたりします。

○定植準備・定植（資料7）

施肥例を参考にほ場準備、条間・株間20cmの4条植えとすため、畝面の幅80cmの畝を作り、しっかりと排水対策をします。

肥効が強いと立ち枯れや芯止まりなどの失敗が多いため、施肥例は控えめですが、地力があるような場合は苦土セルカで酸度調整だけして、必要に応じて、少量追肥する程度にします。

直根性で移植を嫌うため、遅れないよう、本葉2〜3枚で定植します。

○摘芯（資料8）

摘芯しない方が早く咲きますが、葉が8枚の頃に生長点をかき取るか、少し大きくたってはさみで先端を切つて止めます。伸びてきた側枝は揃った大きさのもの4〜5本/株にします。

○倒伏防止

フラワーネット、ひもやマイカ線などを使って倒伏対策しましょう。

○灌水

全般にやり過ぎに注意しながら、前半は過不足なく、花芽が見えだしたら徐々に控え、徒長防止します。

○病害虫（資料7）

立枯病や白絹病は施肥や灌水を控えるにするとともに、表を参考に予防します。ヨトウムシ類やアブラムシ類が発生することがありますから、これも表を参考に防除しましょう。

●収穫 最初にとっ立ちした主茎の花蕾を15〜20cmで切り取り、その後、側枝（わき芽）を伸ばしていきます。側枝から伸びた花蕾が大きくふくらみ、開花直前になったら、柔らかい部分の茎葉ごと摘み取り収穫します（資料4）。

ナバナはビタミン類や鉄分、カリウムなど多くの栄養素を含み、緑黄色野菜の中でも高い栄養価があります。色合いも良くほろ苦さとおひたしや辛し和え、てんぷらやパスタ等、様々な料理にも使える野菜です。家庭菜園で採れたての春を味わってください。

果樹（土づくり・干し柿）

今月号から果樹担当職員が代わります

来年に向け
土づくりを
徹底しましょう



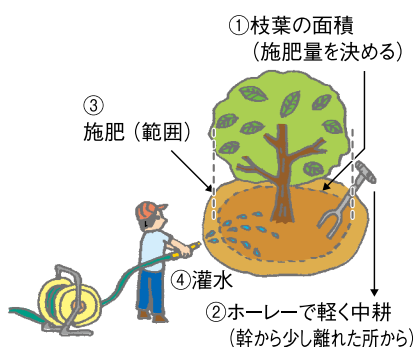
営農部指導課
祇園 将人

今年の果樹は連日の猛暑による高温、干ばつ等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けていると考えられます。今秋に、施肥や灌水、土作りを徹底し、順調に貯蔵養分を蓄え、来年の生育につなげていきましょう。

●果樹の基肥について

基肥には窒素、リン酸、カリの3要素が入った肥料を施し、必要に応じて石灰やマグネシウム、その他の微量要素（マンガン、鉄など）を施しましょう。施肥後は軽く土と混和し、灌水を行い、肥料成分と土をよく馴染ませます（資料9）。果樹品目別の基肥施肥量の目安を掲載しますので、ご活用ください（資料10）。樹勢や今年の収量、土質などを

資料9 施肥の範囲と手順



資料10 果樹品目別基肥施肥量一覧表

果樹の種類	基 肥		追 肥		窒素成分量(g)		
	時 期 (月)	施用割合 (%)	時 期 (月)	施用割合 (%)	1樹当たり		成 木 (10m ² 当たり)
					1年生	3年生	
モモ	10~11	80	8~9中	20	100	200	100~120
ブドウ	10~11	80	収穫後(9)	20	100	300	80~140
梨	11~12	70~80	6、7、9	20~30	100	200	180
柿	12	70~80	6下~7上	20~30	150	200	120~170
梅	11~12	80	7	20	100	150	150
スモモ	10~11	80	9	20	100	200	100~120
イチジク	11~12	60	6上、8上	40	50	80	150
キウイ	10~11	70	3、6、9	30	100	350	180
栗	11~12	60	7上、9下	40	50	75	200
リンゴ	11~12	80	収穫後(10)	20	100	200	180
ビワ	9上	60	2中、6上	40	50	100	250
ミカン類	3~4上	60	6上、11上	40	50	100	200

考慮し、施用量を1~2割程度増減しましょう。

●土作りの方法

冒頭でも記述しましたが今年は夏の猛暑、干ばつ等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けています。部分深耕や中耕を行うと根を切断することになります。切断することにより、幹の近くに新しい細根が発生し樹勢回復を行うことができます。また、固まった土壌をかき回すことで通気性、排水性、保水性を高めることにつながります。部分深耕はあまり極端に行うと根量が一時的に減少し、樹勢が弱まる原因となる場合がありますので樹冠面積の1~2割程度に留めて行い、数年かけて実施します。タコツボ深耕と放射状深耕の例を（資料11）に示しておきます。

●干し柿について

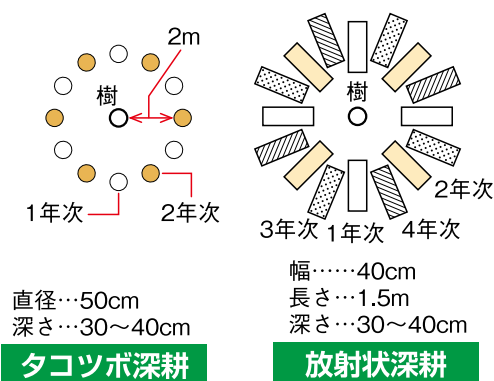
ここ数年は軒先で干し柿を吊るす光景もまばらになってきていますが、干し柿は長期の保存が効くほかに、強い抗酸化作用があるβカロテンを多量に含有しており、がんの予防や免疫機能を強くしてくれ、風邪や病気の予防にも効果があるとされています。ここではそんな干し柿の作り方を記述いたしますので、参考にしてください。

干し柿の作り方(例)

干し柿は温度が高く、降雨が多いとカビが発生してしまいます。気温が低

すので参考にしてください。注意したいことは、深耕した時に土壌改良資材・堆肥と堀土を混合し、乾燥しないように埋め戻して灌水してください。そして県南では土壌改良の適期は10月中であり、遅くとも11月上旬頃までには行いましょう。遅くなりすぎると切断した根から新根が発達せず、翌年の初期生育の低下や、枯れこみにつながるため注意が必要です（資料12）。

資料11 タコツボ深耕・放射状深耕



資料12 土づくり時期

断根時期	秋根の発根状況	発根後の秋根の状態(冬)	評価
10月上旬まで	・太い直根が伸長 ・翌春までに枯死 ・遅伸びを誘発		△
10月上旬中～ 11月中旬 (地温13℃以上)	・細い秋根の伸長 ・休眠まで働く ・翌春早く発根		◎
12月上旬中	・カルス化のみ ・翌春は新根が出る	カルス形成のみ	○
12月中旬以降	・枯れ込み ・初期生育低下	カルス形成なし 枯れ込む	×

④手揉み

表面に薄い皮ができたなら、手で軽く揉んで柔らかくします。

③天日乾燥

日当たりがよく、夜露や雨が当たらない屋根があり、風通しのよい場所を選んで連を吊るし、約30日乾燥させます。始めのうちはカビが生えやすいので、気温が10度以上になるようなら扇風機などで風通しをよくしましょう。

②連づくり

縄やロープなどで連に果実を吊るします。

①収穫・皮むき

果頂部が軟化しない程度に樹で熟させて、晴天で果実の温度が低い早朝に収穫して、皮をむきます。



作り方

- ①レンコンの皮を剥き、粗めのみじん切りにして水にさらしておく。
ショウガをすりおろす。
- ②中火で熱したフライパンにサラダ油を引き、すりおろしたショウガと
鶏ひき肉を入れて崩しながら炒める。
- ③鶏ひき肉の色が全体的に変わってきたら、①のレンコンの水気を切り、
一緒に炒める。
- ④肉汁が透きとおってきたらAの調味料を加え、水分がなくなるまで炒めて、
塩で味を調える。
- ⑤ごはんの上に、④のそぼろ、お好みでその他の具材をトッピングしたら完成！

JA岡山農産物レシピ

レンコンたっぷり そぼろ丼

ポイント 鶏ひき肉は、ヘルシーで
さっぱりさせたい場合はむねひき肉を、
ジューシーに仕上げたい場合は
ももひき肉がおすすめです。

材料 (2人分)

レンコン	180g
鶏ひき肉	200g
ショウガ	1片
サラダ油	小さじ1
●A	
砂糖	小さじ2
醤油(濃口)	大さじ2
料理酒	大さじ1
みりん	大さじ1
塩	適量
ごはん	適量
トッピング	炒り卵、紅ショウガなどお好みで



専門性の高い サービス提供を目指して



Aコープ
スーパー
マーケット



やすらぎ
葬祭・お墓等の
販売



農機センター
農機具の販売・
メンテナンス

平成18年7月、JA岡山は多様化する利用者のニーズに的確に
対応するため経済事業改革の一環として、「LPガス」「給油所」
「オートパル」「農機センター」「Aコープ」「やすらぎ」の6事業部門
を子会社化し、より効率的で専門性の高いサービス提供を目指し
て「株式会社JA岡山」を設立しました。

以来、地域の皆さまの暮らしを支えるパートナーとして、安心
して快適に生活していただけるよう、お客様目線での安定した
サービスを提供しています。

令和7年度から、社会や環境の変化に対応し、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に貢献する新たな取り組みとして「JA
でんき」事業を始め、これからも地域の皆さまに寄り添い、必要と
される「株式会社JA岡山」を目指します。 編集担当 難波 昭浩



オートパル
新車・中古車販売
車検等



JA-SS
ガソリン等の
給油所を営業



LPガス
LPガス供給や
給湯器の設置

各種媒体で情報発信



オンラインショップ
はなやか
花野果
オンライン



Instagram



JAOKAYAMA.OFFICIAL



YouTube



広報誌「はばれと」
意味

水彩画や油絵を描くときに絵具をまぜあわせて色をつくる板のこと。
特色ある地域の様々な情報をうまく調和させながら、地域と共に歩むという願いがこめられています。